

プログラム責任者からのメッセージ



リハビリテーション部
泉 仁

高知県は、日本で2番目の超高齢社会を迎えており、世界でも最も超高齢化が進んだ地域の一つです。その中で人間として自立した生活を支えていくリハビリテーション医療を学ぶことは、最先端のリハビリテーションの実地医療を経験することになります。つまり、本プログラムの経験により、日本のいたるところで力を発揮できるリハ医療者の力を得ることができます。日本の人口減少により、急性期や慢性期病床は今後、縮小の一途をたどります。しかし、在宅復帰を目指す回復期病床は増加させる必要があると試算されており、リハビリテーション専門医の活躍の場は拡張することは間違いありません。回復期病床の豊かな高知県に全国からリハビリ専攻医が集まることを期待しています。

プログラムの特色

高知大学リハビリテーション部が中心となり、研修医の希望を取り入れながら研修を行います。多くの難治症例が集まる大学病院で希少症例を経験することができます。研修連携施設の近森リハビリテーション病院は、日本の回復期リハビリテーション病院のモデル施設であり、最先端の回復期リハを経験でき、リハ医として成長できます。急性期・回復期・維持期のリハを細木病院・高知病院で一括に研修できます。小児疾患は高知県唯一の障害小児専門施設の高知県立療育福祉センターで対応します。

連携施設名等

	施設名	指導医名	専門分野・特色
基幹施設	高知大学医学部附属病院	泉 仁	リハビリテーション・整形外科
連携施設	近森リハビリテーション病院	中山 衣代	リハビリテーション
	細木病院	山川 晴吾	リハビリテーション・小児整形外科
	高知県立療育福祉センター	三宮 奈穂	リハビリテーション・小児整形外科

プログラムの到達目標

- 3年間の研修中に以下のリハビリテーション関連分野症例経験を要する。
- 1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など／15例
 - 2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷／10例
 - 3) 骨関節疾患・骨折／15例
 - 4) 小児疾患／5例
 - 5) 神経筋疾患／10例
 - 6) 切断／5例
 - 7) 内部障害／10例
 - 8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など)／5例
- 以上の75例を含む100例以上を必須とする。但し、必要症例数は変更の可能性あり。

専攻医週間スケジュール

高知大学医学部
附属病院の例

	月	火	水	木	金
7:30～8:30			研究カンファレンス	論文抄読会	
8:30～9:00	リハビリ科カンファレンス		リハビリ科カンファレンス	リハビリ科カンファレンス	リハビリ科カンファレンス
9:00～12:00	リハビリ外来	リハビリ外来	リハビリ外来	小児リハビリ外来	補装具判定外来
13:30～17:00	整形外科合同カンファレンス	リハビリ外来	リハビリ外来	ボトックス外来	リハビリ外来
17:00～18:00	問題症例等のカンファレンス	研究時間	問題症例等のカンファレンス	研究時間	問題症例等のカンファレンス

専門医・指導医取得までのタイムスケジュール

基幹研修施設・連携施設での3年間の専門研修中に、日本リハビリテーション医学会主演者発表1回以上、同学会地方会主演者発表1回以上の合計2回以上の主演者発表を行い、研修修了後に必要経験症例レポートなどの書類を作成し、リハビリテーション専門医試験を受験することができます。専門医取得後、3年以上、基幹研修施設・連携施設での常勤勤務を行い、和文もしくは英文論文1編を執筆し、必要書類を作成後、リハビリテーション指導医取得を申請可能である。

取得可能専門医

リハビリテーション専門医

主要症例と実績数

施設別年間症例数	大 学	近森リハ	療育福祉センター	細木病院	高知病院	合計
(1)脳血管障害・外傷性脳損傷など	321	407	18	87	48	881
(2)脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	173	24	15	18	11	241
(3)骨関節疾患・骨折	624	35	151	346	501	1,657
(4)小児疾患	47	0	602	17	0	666
(5)神経筋疾患	82	0	35	21	5	143
(6)切断	24	8	0	11	7	50
(7)内部障害	181	0	0	0	3	184
(8)その他(廃用症候群、がんなど)	641	51	0	46	24	762



問い合わせ先

■教 室 名／リハビリテーション部
■担当者名／泉 仁
イズミ マサシ

■電 話／088-880-2490
■メー ル／izumim@kochi-u.ac.jp